

ご存じですか？ /



# 『救急医療情報キット』

町では、緊急時に救急隊員などに必要な情報を提供する「救急医療情報キット」を、希望者に無償で配布しています。

## 救急医療情報キットって？

家族や知人などの連絡先・かかりつけ医・持病・服用薬などの情報を容器に入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておくことで、救急車を呼ぶなどの緊急時に、救急隊員などがその情報を活用し迅速な救命活動が行えるよう備えるものです。

救急医療情報キットの配布状況 (H30.4 月時点)

75 歳以上の高齢者数	901 人
配布対象者数 (75 歳以上の高齢者のみの世帯)	312 人
配布者数	229 人 (73.4%)

※上表はキットの配布対象者の一部、75 歳以上の人を集計しています。

## 救急医療情報キットをもらうには

**<対象者>** ▼ 65 歳以上の高齢者のみの世帯 ▼ 障がいのある人  
▼ そのほか、必要だと思う人は役場までご連絡ください。

### <キットの内容>

- ① 保管用の容器 (医療情報などを記載した用紙を入れ、冷蔵庫に保管)
- ② 医療情報等記載用紙
- ③ 冷蔵庫扉用シール (マグネット)
- ④ 玄関用シール (目印として玄関の扉などの内側に貼り付けるもの)

### <申請場所>

希望者は、役場健康福祉課および役場黒坂支所に備え付けの申請書に必要事項を記入の上、提出してください。詳しくは、役場健康福祉課 (電話 72-0334) までお問い合わせください。



## <江府消防署からのお願い> 情報用紙に記入を

キット内の医療情報等記載用紙に必要事項が記入されていなかったため、救急時に活用できなかったという事例がありました。救急医療情報キットを持っている人やこれから受け取る人は、内容が変わったら必ず新しい情報に書き直しておきましょう。

### どんなメリットがあるの？

- ▼ 迅速に適切な判断、搬送、処置、治療につながる。
- ▼ 正確・重要な情報を伝達できる。
- ▼ 家族に連絡が取りやすい。
- ▼ かかりつけ医が分かるので、適切な病院選定に役立つ。



江府消防署  
松本章義さん

夜間の急な病気やけがなど、すぐに受診した方がよいのか困ったときは…

とっとり

大人 (おおむね 15 歳以上の人) を対象

県内のプッシュ回線・携帯電話からは

# おとな 救急 ダイヤル # 7 1 1 9

経験豊富な看護師などが医療機関の受診の必要性や対処方法などについて助言します。

※この相談は、診療、医療行為ではなく、電話での助言により相談者の判断の参考としていただくものです。※相談料は無料ですが、通話料金がかかります。

## 第25回 ポリファーマシー ～あなたは無駄な薬を飲んでいませんか～

日野病院 病院長 孝田 雅彦



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

**新年からたくさん薬を飲んでいませんか？**

新年明けましておめでとうございます。皆さん、良いお正月を迎えられたでしょうか。

今年の正月は曇りや雪の日が多かったですが、体調はいかがでしたでしょうか。「膝が痛い」「腰が痛い」と鎮痛剤を飲み、「胃が悪くなるから、胃薬も飲んでおこう」と、どんな薬が増えていませんか。このように多数の薬を飲んでいることをポリファーマシーと言います。何種類飲んでいけばポリファーマシーと言うかははっきりしていません。

が、6種類以上は異論のないところでしよう。しかし、必要な薬は飲まないといけないので、必要とされる以上に薬を飲んでいる場合をポリファーマシーというべきでしょう。

**飲み続けなければいけない薬と、そうでない薬**

薬には3種類あります。病気の本態を治療する薬、例えば細菌性肺炎で細菌を殺す抗生剤です。この薬は病気が治れば終了です。次に、病態をコントロールする薬です。降圧剤や高脂血症の薬、抗不整脈薬などです。降圧剤で血圧が正常になっても薬をやめればまた血圧は上がってしまいます。したがって、これらの薬は勝手に中止することはできません。

最後は症状を和らげるための薬です。熱が出たときの解熱剤、痛いときの鎮痛剤、眠れないときの睡眠薬などです。これらの薬は症状が治まればやめても問題ありませんし、できるだけ控える方が望ましいものです。

「今は痛みが治まってい

るので鎮痛剤は控えてもいいかな？」と思われるから、主治医の先生に申し出て下さい。この種の薬でも一度にやめると症状を悪化させることがありますので、主治医と相談の上、適切なやめ方をしてください。

**医師だって薬の量は減らしたいもの。やめるときは必ず主治医の判断を**

時に、「先生に薬を減らしてほしい」というのは失礼になるのでは」と考える患者さんもいますが、むしろ医師は薬を減らしたいと思っていますので、心配ありません。

ただ、前述のように病気の本態を治したり、コントロールしたりする薬をやめ

るためには十分に検討しないといけませんので、主治医と相談し、くれぐれも勝手にやめないようにしてください。

また、「医師はたくさん薬を出して儲けようとしている」と思っている患者さんがいますが、それも間違いです。今、医療機関のほとんどが院外処方なので薬代では儲けることはできませんし、むしろ、処方する薬が多いと処方料が減らされて損をすることになります。薬が多いと副作用もいろいろと増える可能性があり、医師もたくさんさんの薬は出したくありません。

高齢者では薬が多いと飲み間違いが起りやすくなります。朝昼夕の薬はよく余っていたり、飲みすぎて足らなくなったりすることがあります。できるだけ飲む回数や回数が少なく、一回で飲むようにするのが望ましいと思います。

薬は必要な種類を確実に飲むことが大切です。薬に頼りすぎず、大事な薬はしっかり飲んで健康を保ちましょう。

